

編集後記

2021 年度は、2020 年度に引き続き新型コロナウイルスによる断続的な感染拡大の中で、教育研究活動を進めることとなりました。前期は授業を対面で始めましたが、福岡県では 5 月 12 日に第 3 回目の緊急事態宣言が発令され、6 月 21 日にまん延防止重点措置に切り替わり、7 月 11 日まで継続されました。前期の授業は遠隔授業を併用しながらの授業となり、前期定期試験を中止せざるを得ませんでした。後期は、一定の感染拡大の中でも原則対面授業として遠隔授業を部分的に併用する形となりました。定期試験も 2 年ぶりに実施することができました。授業の対面実施を最優先の課題とした一方で、国内外の人の移動も引き続き厳しい制限を受けたため、学会活動やフィールドワーク、国際交流などの活動も大きく縮小され続けました。ウィズコロナの教育・研究活動を探り続けた一年と言っていいでしょう。

年度が明けて 2022 年度に年報の編集を行っています。2022 年度も変異を伴いながら新型コロナウイルスは、感染拡大を繰り返しています。そのような状況の中で、『理学部・理学研究科の年報 2021』の編集について、編集委員の先生方や事務室長はじめ教員や関係者の皆様方には多大なご協力をいただきました。有り難うございました。本年報は理学部ホームページに pdf 版で掲載するとともに、ISSN 日本センター（国立国会図書館）に登録し、学内のみならず学外の方々も閲覧できるようにしています。本年報が理学部・理学研究科の 2021 年度の教育・研究活動を俯瞰し、今後の改善・改革に役立ち、また共同研究などの可能性を探る上でも大いに役立つことを願っています。尚、年報は 2016 年度版までは紙媒体と Web で公開していましたが、2017 年度版からは、紙媒体での公開を廃止し、Web だけで公開しています。

（2022 年 12 月 21 日 林 政彦 記）

編集委員

林 政彦 （理学部長）
川田 知 （理学研究科長）
仙葉 隆 （応用数学科）
西田 昭彦 （物理科学科）
松原 公紀 （化学科）
景浦 宏 （地球圏科学科）
永田 和江 （教務三課）